

次 第	顛 末
1 開 会	事務局 開会宣言
2 挨拶	森座長（大東文化大学） 吉澤勲 教育長（東松山市教育委員会）
3 協 議 事務局	<p>令和7年12月策定 「部活動改革及び地域クラブ活動の推進に関する総合的なガイドライン概要」の説明</p> <p>1 国の示す改革の理念について ①スポーツ・文化芸術に親しむ機会を確保・充実 ②障害の有無に関わらず多種多様な活動に参加できる環境の整備 ③学校が担ってきた教育的意義を継承し、新たな価値の創出について</p> <p>2 国の示す改革実行期間について 令和8年度～令和10年度「改革実行期間」（前期） 令和11年度～令和13年度「改革実行期間」（後期） 東松山市としては前期期間において実証事業を実施し、有効な手段を検討する。</p> <p>3 地域クラブ活動に関する認定制度について</p> <p>大塚委員 地域展開する場合には場所の問題があると考えている。 連盟の会議では文化センターを貸切り、練習することなども可能だと考えている。しかし、課題としては打楽器等の運搬費は補助や施設利用料の減免は受けられるかなどがあると考えている。</p> <p>森座長 今後、地域展開を進める上で、この場で課題を検討必要があると考えている。公共施設の利用と学校の利用両面で検討していく必要があると思う。</p> <p>寺田委員 地域クラブとして成り立つことが必要だと考えている。今後、認定クラブについては認定されないクラブも出てくると思うが、そのことについてはどう考えているか。</p> <p>事務局 当面は、認定するクラブと既存の部活動の両輪で考えていく必要がある。</p> <p>寺田委員 今度、地域展開を進める上で、学校の施設を使えるかが大きな問題となると思うが、校長先生方はどう考えているか。</p> <p>西川委員 現在も学校開放という形で利用しているので、そのような形を利用していくことも検討していかなければならないと考えている。</p> <p>松崎委員 現状、白山中には部活動指導員が配置されていないので、意見を伝えられない現</p>

	<p>状もある。教育委員会として課題は考えられるか。</p> <p>事務局 新規団体を教育委員会認定とした場合に、既存団体との会場使用上の問題も発生するという問題がある。</p> <p>森座長 地域クラブとして受け入れてくれる団体があればある程度優先にしても良いと思う。</p> <p>長澤委員 運営団体と実施主体という話が出ているが、今後この事業はどこが運営団体となるのか。</p> <p>事務局 今後検討する。</p> <p>長澤委員 そこが明確にならないと活動の方向性が定まらないのではないか。</p> <p>森座長 活動場所等を管理するコーディネイターが必要ということはガイドラインにも規定されている。しかし、これは非常に大変な業務なのでどのような形をつくるか検討しなければならないと考えている。東松山の規模で実施するには相当な労力を要する。</p> <p>事務局 【実証事業について】 既存部活動にある種目で冬季に実証事業を検討している。具体的には、陸上競技・剣道・ソフトボールで実証事業を検討している。1月に競技団体と打ち合わせを実施した。各種団体としては実施主体となるのではなく、あくまでも講師を派遣する形での実施を考えているとのこと。競技団体としては技術の向上も大切だが、競技の普及発展にも協力したいと考えている。以上のことから市内中学校での実証事業を考えている。 例をあげるならば、陸上・剣道は4校設置しているので市内2か所での実施。ソフトボールは3校設置で、人数も少なくなっているため1か所での実施を検討している。開催期間は新人戦終了後の令和8年12月～令和9年2月で検討している。実証事業期間中は市内部活動に協力してもらい実施する。開催日時に関しては定期テストの関係もあり不規則になることも考えられる。指導者に関しては部活動指導員と外部指導者を考えている。しかし、外部指導者だけでは部活動を行うことができないので、部活動指導員は必須になると考えている。会場へ現地集合を考えている。</p>
西川委員	本校は陸上部がないが、陸上の実証事業に参加することは認められるのか。
事務局	認める方向で考えているが、生徒が現在所属している部活動とどちらに参加してよいかわからない状況にならないよう配慮したい。
寺田委員	実証事業は土日か。
事務局	土日のどちらかを考えている。
太田委員	実証事業中の部活動指導員の雇用についてはどうするか。

事務局	現在の部活動指導員が実証事業を行う形を検討しているが、雇用形態については今後、更に検討が必要だと考えている。
太田委員	外部指導者のみの実証事業の実施はありえるか。
事務局	部活動指導員が指導者でない場合、実施はできない。
森座長	この実証事業の目的はどう考えるか。指導の水準をどこに設定するかが非常に難しいと考えている。
事務局	競技団体との打ち合わせで、参加対象の人数や技量で内容を検討することとなっている。しかし、次年度は初めて競技を行う生徒でなく、ある程度経験のある生徒で実施を考えている。
寺田委員	外部指導者だけでの実施はないということでよいか。
事務局	必ず、部活動指導員がいる状況を設定する。また、今後部活動指導員の任用についても検討をしていく。
森座長	実証事業後の検証について、どのように行うのか。
事務局	実証事業終了後、アンケートを実施し振り返りを行う。また、中体連の動向を踏まえながら今後の取り組みを検討する。
森座長	子どもの現状を踏まえながら検討していく必要がある。
松崎委員	実施後にアンケートを取るのであれば、実施の意図や今後のイメージをどのように考えているのか。
事務局	保護者の啓発、教職員への理解も進めていきたい。具体的な部分は検討していく。既存の部活動を生かしていく。部活動による指定校変更なども検討していく必要がある。
西川委員	部活動を指導したい先生の兼職兼業についてはどう考えているか。
事務局	指導員の確保の観点や兼職兼業の規則に則って検討していく。
長澤委員	保護者からすると生徒の移動に関しても心配な点が残る。例えば、オンラインなども検討してみてはどうか。様々な視点を考え環境を整えてはどうか。
森座長	部活動指導員が巡回するなど様々な形を考える必要があると思う。そうなれば指定校変更しないメリットもあるのではないか。
太田委員	クラブで中学生が自転車で行っているが、事故も多い。保護者の送り迎えも配車など協力して行っている。
森座長	行政でバスを借り上げて移動している自治体もある。そのようなことも検討してはよいのではないか。
森座長	実証事業は全ての部活動で実施するのか。
事務局	できるもので実施を考えている。すべての部活動で行うものではない。
森座長	文化部は何か検討しているか。

事務局 大塚委員	楽器の運搬があるので現状令和8年度は検討していない。 松山中、北中の部活動指導員を活用して、2校に生徒を集めては実施することはできるのではないかと感じている。吹奏楽部経験者でも基礎ができていない場合が多いのでパートごとの指導の必要性を感じている。外部指導者は全体合奏の指導が主となるので基礎の部分も教えてあげたいと感じている。
事務局 大塚委員	全体指導しか考えていなかったもので、様々な形を検討したい。
事務局 森座長	地域展開という視点も大切だが、現状では個々の技能上達に貢献したい。
事務局 太田委員	陸上・剣道・ソフトボールだけでなく様々な競技で検討していきたい。
事務局 森座長	障害をもつ生徒も参加できるような活動を行いたい。
事務局 太田委員	指導者以外の人員配置はどのように考えているか。例えばケガ人が出た場合、ケガの処置や保護者への連絡等、指導者が1人だけでは対応に時間がかかる 補助する人がいるとよいと考えている。
事務局 森座長	生徒が安全に活動できる人数を配置できるよう準備してまいります。
事務局 西川委員	実証事業当日は、事務局職員は参加するか。
事務局 太田委員	参加する予定である。
事務局 西川委員	様々な人材を活用できるように準備したいと考えている。
事務局 太田委員	保護者が不安にならないようなアナウンスを行ってほしい。
4 諸連絡 事務局	今後の協議会の開催について、次回は7月を予定している。
5 閉 会	事務局：学校教育部 次長 澤田一彦
上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。	<p>令和8年 3月 31日 署名委員 大塚 実</p> <p>令和8年 3月 31日 署名委員 寺田 浩之</p>